

27.06.2017

化学工学会エネルギー部会炭素系資源利用分科会

第4回炭素系資源の利用に関する勉強会

化学工学会エネルギー部会炭素系資源利用分科会では、炭素系資源の利用に関する勉強会を下記の要領で開催します。この勉強会では、聴講者を交えたフリーな討論を通して、研究のニーズに関する理解を深め、今後の研究に活かすことを目的としています。今回は、①新規2相分離型吸収液を利用したCO₂分離回収の省エネルギー化、②石油利用技術開発の新しいパラダイムを拓く、「ペトロリオミクス」事業の統括リーダーより、今後の石油資源開発技術の方向性に関する講演をお願いしております。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

日時： 2017年9月19日（火） 16:00～19:00

場所： 名古屋大学東山キャンパス内（詳細は決まり次第[分科会HP](#)に掲載いたします。）
（最寄り駅 名古屋市営地下鉄名城線 名古屋大学）

主催： 化学工学会 エネルギー部会 炭素系資源利用分科会

プログラム：

16:00～16:10

分科会代表挨拶 則永 行庸 （名古屋大学大学院工学研究科化学システム工学専攻）

16:10～17:00 （司会 中川 浩行）

町田 洋（名古屋大学）

「相分離を利用した省エネルギー二酸化炭素回収技術」

発電所等から排出されるCO₂を高効率で分離、回収する技術が望まれている。CO₂吸収時に相分離を引き起こす相分離型CO₂吸収剤は、吸収⇄再生温度差を従来の半分にでき、CO₂分離回収エネルギーの大幅な削減が可能となる。本講演では、開発した相分離型CO₂吸収剤の分離原理とCO₂分離回収エネルギーの試算結果を紹介する。

17:00～18:00 （司会 伏見 千尋）

豊岡 義行（一般財団法人石油エネルギー技術センター）

「我が国の石油産業の実情 –成熟からの覚醒–」

国内石油需要は長期低落傾向が続くものの、世界需要はアジア圏の経済成長に牽引され中長期的に増加し続ける。石油精製技術について見れば、中身が解析できていない天然物、原油を最大規模のプラントで取り扱う難しさからの脱却、すなわち、原油や重油の組成解析技術が開発され、かつてないイノベーションの芽が出てきた。海外事業展開と革新的石油精製技術開発（ペトロリオミクス）の二つを軸とする、国内石油産業の「成熟からの覚醒」の実情を紹介する。

18:00～19:00 総合討論 （司会 宮地 健、橋本 望）

19:30 ～ 技術懇談会（本山周辺を予定）

参加費： 化学工学会エネルギー部会員 （2,000円）、化学工学会エネルギー部会賛助会員企業（2,000円）、化学工学会会員（3,000円）、非会員（4,000円）、学生（2,000円）（当日会場でお支払いください）

参加希望の方は2017年9月14日（木）までに、所属・氏名・懇談会参加の有無をご連絡ください。（当日参加も可能です。）

連絡先： 伏見千尋（副代表） 東京農工大学大学院 email: cfushimi@cc.tuat.ac.jp